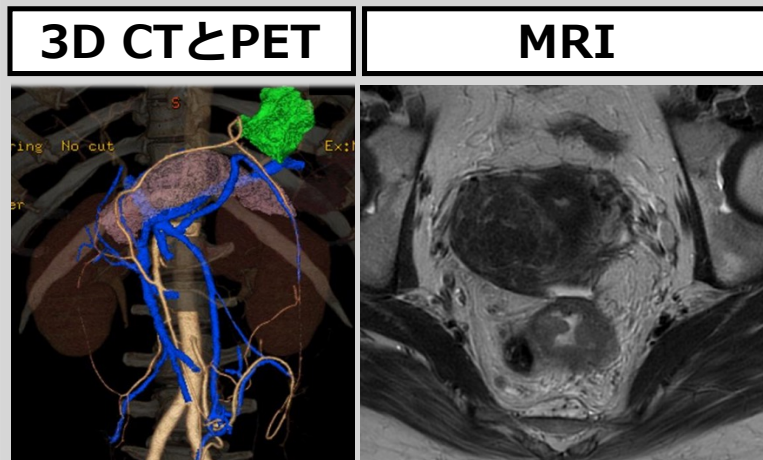




大阪大学の大腸がん治療

当院での治療の流れ		Stage I	Stage II, III	Stage IV
直腸癌	non MSI-high/pMMR	手術	臨床試験	化学療法 (分子標的薬)
	MSI-high/dMMR		術前治療→手術 治験	免疫チェックポイント 阻害剤
結腸癌	non MSI-high/pMMR		手術	化学療法 (分子標的薬)
	MSI-high/dMMR		治験 手術	免疫チェックポイント 阻害剤

高精度な画像診断



造影CT, PET, コロノグラフィーをもとに
3次元再構築画像を作成し、高精度の
手術シミュレーションを行っています。

直腸がん治療に**MRI**は必要不可欠です。
MRIの撮影は非常に特殊で、
専門的な知識と技術が必要です。

大阪大学の**MRI**は、欧米の厳しい基準に
適合する高画質の撮影をしています。

正しいMRIは、
正しい診断のために大切です。

遺伝子検査

がんの遺伝子のキズ(≡遺伝子変異)
を調べることで



治療の効果を予測

治療の方針を変更

できる可能性があります。

調べる遺伝子変異の種類は
**KRAS, NRAS, BRAF,
MMR* (MSI), HER2**

などです。

*大阪大学は院内でMMR検査可能です。
早く結果を確認し治療方針を決定できます。

進行している場合は、手術の前に

放射線・薬物療法

を組み合わせた治療を行います。
遺伝子検査の結果によっては

免疫チェックポイント阻害剤

を使用することもあります。